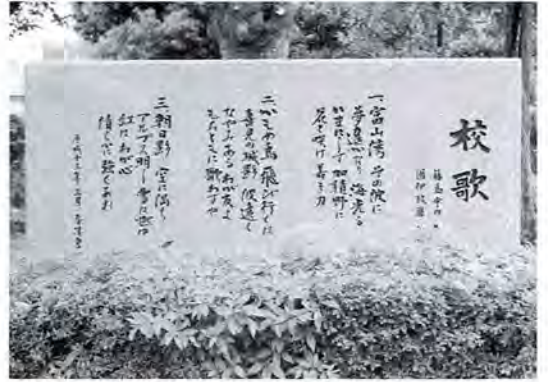


同窓

— 同窓会だより —

No. 117 (令和 6. 8. 10発行)

富山県立魚津高等学校同窓会



- 1面 同窓生寄稿
- 2面 同窓生寄稿
- 3面 同窓生寄稿、お知らせ
- 4面 魚高生の活躍、お知らせ



落ちこぼれの紆余曲折人生

加藤 久 康 (魚高36回)

(将棋観戦記者、第36期プロボウラー、バックギャモン32期王位 椎名龍一)

魚津高校の同窓会冒頭文を書け、というメールが届きました。なんでオレなん？魚津高校といえば富山県東部地区の屈指の進学校。そんな立派な高校に入りながら在学中に停学処分を2回も受けた超落ちこぼれのオレでいいがけ？他にもっと魚津、いや富山、いやいや日本を背負って活躍している優秀な卒業生がいっぱいおるやろが！と忘れかけていた高校時代の苦い思い出とともに、これまた忘れかけていた魚津弁がとつさに心に思い浮かんでしまったりもしたのですけど、疑問を大いに感じながら僭越ながら書き始めてしまうのであります。

というわけで魚津高校を卒業された皆様、こんにちは。自己紹介をしますと、昭和59年に魚津高校理科をオマケで卒業させていただきました加藤久康と申します。今から思うと卒業できたのは「こんな不良学生を留年させたら次年の在學生にとって悪影響は必至。こんなヤツは早く追い払う一手」という教職員の方々の意図があったかもしれません。そんな落ちこぼれの私の人生は紆余曲折がありまして、結局のところ将棋の観戦記者という仕事に落ち着き、かれこれ30年を超えて将棋の仕事をやリ、毎日新聞の名人戦・順位戦という将棋欄にて椎名龍一という筆名で観戦記を書いております。ペンネームの由来は作家の椎名誠さんと音楽家の坂本龍一さんのファンだったことからお二人の苗字と名前を勝手にくっつけて使わせていただいています。

ここ数年で嬉しかったことを皆様にお伝えすると、将棋ペンクラブ大賞という将棋関係の著作物に贈られる賞の観戦記部門で3年連続で賞をいただいたことでした。第32回で優秀賞、第33回と第34回では大賞を連続で受賞したのですが、これは3倍満と役満と役満を3局連続で上がったような奇跡でした。初めて賞を受賞した第32回では

「将棋の観戦記者をやっているこれで手ぶらであの世に行かなくてもよくなったな」とホッとした気持ちになり、翌年に大賞をもらったときには「これはひよっとしたら早く三途の川を渡ってこっちにこいということかもしれないな」という気持ちになり、その翌年にまさかの連続での大賞となったときには「もう自分は死んでいて残った意識だけが都合のよい仮想現実を作り出しているのかもしれないな」なんてことも思ったりするほどに奇跡的な出来事だったのですがどうやら自分はまだ生きています。

最近の将棋界では藤井聡太さんという天才棋士が話題になっていっています。彼はつい最近タイトルを一つ失ってしまいました。それでも八冠あるタイトルの七冠を保持している怪物であることは間違いない。観戦記者をやってきた私の体感で言えば、羽生善治さんが全冠を制覇したとき以上の怪物だと感じます。

将棋の観戦記者をやリながら、20代後半からプロボウラー資格取得試験に挑戦し3度落ちながら4度目に合格してプロボウラーになってみたり、バックギャモンというゲームの世界に40代の人生の時間のほとんどを過ごし込んで王位というタイトルを取ったり、失意と歓喜がごちゃごちゃに混ざった紆余曲折どころか11次元が必要と言われている量子力学も理論並みの曲折みたいな人生を歩んできたのですが、振り返るとやはり因果律というのでしょうか。前の出来事が次の出来事を生み、それが次々と連鎖してやはり今の自分があるようにも思えます。そう思うと人生の黄金期とも言える貴重な青春時代を魚津高校という素敵な空間、素敵な学友と過ごせたことは私の宝物だったのだなと改めて思いました。魚津高校同窓生の皆様のご多幸をお祈りいたします。

魚中からの地理学の伝統を引き継ぐ

一般社団法人黒部川扇状地研究所 所長 鍋谷良和（魚高18回）



この春、魚高入学と同時に出会い、それから60年来にわたって付き合ってきた親友、水嶋一雄氏と永久のお別れをすることとなりました。

我々は「団塊の世代」と称され、年齢別人口で言えば日本史上最多の学年であり、進学、就職は厳しい競争世代でしたが、高校生活は自分自身としては比較的のんびりと学校生活を楽しませてもらいました。一年生時には、昼の弁当は五分で平らげ、私と彼、他数人の同級生は体育館に急行し、昼休みいっぱいバスケットボールに熱中していたことが懐かしく思い出されます。

大学進学にあたって、私には特に明確な目標もなく、適当なところで妥協したような、思い返せば進学させてくれた家族に申し訳ない気も致します。しかし、彼は明確に「地理学」を志し、当時、その権威である籠瀬良明先生の教室を目指して日本大学に進学しました。籠瀬教授は入善町生まれで旧制魚津中学出身であり、その教え子の吉島啓重先生が当時魚高で地理を教えておられ、その授業に触発された故もあつたのでしよう。卒業後も籠瀬教授のもとに残り、講師・助教を経て教授となりました。

昭和51年に「黒部川扇状地研究所」が設立され以来、50年目を迎えるうとしています。彼はその第4代所長として会の発展に尽くしてきましたが、彼の急逝を受けてやむなく私が後継所長を引き受けることになりました。

現在、会員130名余、会員の興味関心は、地理学をはじめ、自然、動植物、歴史、民俗など多岐にわたり、それぞれの研究活動を取りまとめるほか、地域住民や子どもたちを対象とする啓発、情報発信などの事業を展開しており、その組織を運営する大変さを日々身に染みて感じているところです。

個人的には、「古文書」、特に当地域に残されてきた藩政期以降の「村方文書」の研究調査に着手、気が付いてみると、いつの間にかかなりの量の貴重な古文書が手元に集まっています。これら貴重な資料を少しでも後世に引き継ぐため、解説集のような形にまとめることがこれらの仕事と考えています。

魚津高校のあり方とは

富山県議会議員 一期生 寺口智之（魚高49回）



富山県の高校一年生の生徒数は何名でしょうか？この問いに皆さまは答えできるでしょうか？

県のデータによると、令和5年10月次に15歳の方は8680名です。現在県立高校はこの生徒数に対して34校158学級です。生徒数の減少とともに学校数や学級数は減少し、2010年には再編統合により38校に、2017年にはさらに泊高校を含む4校の統合がなされ、魚津高校も一学年4クラス160名の定員となりました。そして今まさに県教育委員会は、次の高校再編に向けた検討を進めています。今の出生数から15年後の高校一年生の数が推計できますが、今よりさらに3割も減少することが判っております。

生徒数の大きな減少が目に見えているなかで、高校再編は避けて通れません。県教委が示した再編検討の方向性では学校規模が1学年4学級以下又は160人以下の学校を対象にすることで魚津高校も再編検討の対象校です。

県教委では、県立高校の目指す姿や具体的な学科・コースの見直し、そして再編統合について検討をしています。具体的にいつまでにとの明言はありませんが、今年度中に方向性は示したいということです。

新川地域の拠点校、名門魚津高校でありながら、普通科単独校でほとんどの生徒が進学し、半数以上の卒業生が県外や国外で活躍しているという現状。これは素晴らしいことでありながら、地域や富山県にとってありがたいことなのか？と問うと、最適解ではないような気がしてきます。

社会状況の急激な変化により、既存のシステムが当てはまらなくなってきたことははっきりしています。高校のあり方について、これまでの考えはもう通用しません。

魚津高校が今後どうあるべきなのか、真剣に考え意見を出していくことが重要と考えます。子供たちにとって、そして魚津高校にとって、より良き再編整備となるように、どうか皆様にもぜひ関心をもってご意見をいただきたいと考えております。

「紅」におもふ

魚津高等学校 教頭 小川 理 香 (魚高39回)



6月の高校総体。声を振り絞って応援する生徒たちの背中には「紅はわが心」の文字。胸が熱くなり、11年ぶりに帰ってきた母校への愛をかみしめた。英語の「Love」が明治時代に始めて日本語に訳されたときの意味は「御大切に」だったそうだ。高校生として、そして教員として、実に20年以上過ぎた校舎やかけがえのない仲間は、今も大切な存在である。とりわけ「紅」は、ずっと自分を鼓舞する大切な色であった。

話は飛ぶが、紅色の色素は、ベニバナという花から作られる。この花はナイル川流域原産で、シルクロードを通じて中国へ渡り、4世紀頃日本に伝わった。万葉集には大伴家持の「春の苑紅にほふ…」の歌もあるが、平安時代になって、紅は今様(流行)色として憧れの的となった。ちようど今年のNHK大河ドラマ「光る君へ」では、宮廷の姫たちが纏う色鮮やかな着物に目を奪われる。もともと黄色のベニバナの花びらには赤色の色素はわずか1%しか含まれていない。希少な紅色は、一部の貴族しか着用できない禁色だった。

さて、私が再び魚高に通い始めて3か月。特にここ5年間は現場を離れていたため、4月当初は学校の様々な変化に戸惑った。学習指導要領の改訂やICT教育の推進といった時代の流れやコロナ禍を経て、授業の進め方や生徒の学校での過ごし方が変わった。しかし、何より驚いたのが、生徒たちがみんな「いい」子なのである。いとも簡単に一人一台端末を操る生徒たちを前に冷や汗をかく場面が度々あったが、生徒たちはとても優しい。さらに素直で従順である。自分が歳をとったからなのか、子供たちが長い自粛生活を強いられたからなのか。そんな生徒たちに愛おしさを感じると同時に、今後彼らが遭遇するであろう社会の荒波を思うと不安も感じた。乗り越えていけるだろうか；その心配が杞憂に過ぎないかもしれないと感じさせてくれたのは、試合会場で「紅」を背負い、一致団結して応援する生徒の姿だった。変わりゆくものの中で、残したいもの。今は「魚高節」の一節「ぼろをまとえど心は錦」を歌える生徒は少なくなりましたが、「紅」の精神を少しでも生徒と共に次へとつないでいけたらと思う。

令和6年度 第6回海外研修について

グローバル社会の中で活躍する人材を育成することを目指し、生徒の国際性を高める活動の一環として、1、2年生を対象に第6回海外研修を実施いたします。昨年に引き続き、カナダでの9日間の語学研修を中心に計画を進めています。同窓会の「紅奨学金」から補助を受けての研修となり、参加者が国際性を涵養し、将来の進路設計の一助とすることを目指します。

概要

〔実施期日〕

令和6年12月6日(金)～12月14日(土)9日間

〔研修先〕

カナダ ブリティッシュ・コロンビア州

バンクーバー市

〔主な研修内容〕

ホームステイ、英語レッスン、アクティビティ、ブリティッシュ・コロンビア大学訪問、現地高校生との交流、バンクーバー市内観光

滞在中の訪問先



第77回 魚津高校体育大会

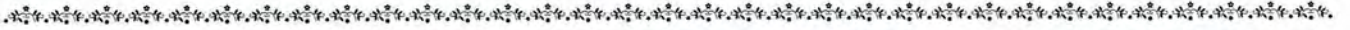
雲起龍驤

期日：令和6年9月4日(水)
※雨天順延時：5日(木)

- 8:20 開会式
- 9:00 午前競技
- 12:50 応援合戦
- 13:40 午後競技
- 15:30 閉会式

(当日の天候や進行状況等により、時間に変更する場合があります)





ダンス同好会



少林寺拳法



陸上競技



男子ソフトテニス



野球



放送



魚高生の活躍 (令和6年3月~7月)



○陸上競技部

- ・第77回富山県高等学校陸上競技対校選手権大会

女子やり投	4位	北信越大会出場	中林 紗羅	3-3
女子800m	6位	北信越大会出場	川尻 悠加	2-4
女子400m	8位		前田 望実	2-1
- ・第66回富山県陸上競技選手権大会

女子やり投	5位		中林 紗羅	3-3
女子400m	6位		前田 望実	2-1

○男子ソフトテニス部

- ・令和6年度富山県高等学校総合体育大会

個人	7位	北信越大会出場	舟川 和斗	3-1
			藤森 駿平	2-1
- ・令和6年度ソフトテニス新川地区総体(金尾杯)

団体	2位			
個人	1位		藤森 駿平	2-1
			浮田 鳳雅	2-1

○女子ソフトテニス部

- ・令和6年度ソフトテニス新川地区総体(金尾杯)

団体	1位			
個人	1位		高木 千尋	1-1
			木本うらら	2-2
	3位		川西 紗佳	1-2
			住吉 美悠	1-4

○男子バレーボール部

- ・富山県高等学校春季大会 ベスト8
- ・富山県高等学校総合体育大会 ベスト8

○男子バスケットボール部

- ・新川地区夏季バスケットボール大会 1位

○男子バドミントン部

- ・第43回全日本ジュニア選手権大会 富山県予選新川地区大会 1位 森山 羽空 1-4

○少林寺拳法

- ・第9回富山県高等学校少林寺拳法大会 女子単独演武 1位 全国大会出場 松嶋香寿美 1-4

○吹奏楽部

- ・第28回全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト

サクソ	優秀賞	木瀬 彩乃	2-4
ピアノ伴奏		大倉 和子	2-2
- ・第36回中部日本個人・重奏コンテスト本大会 打楽器五重奏 銀賞

○放送部

- ・第63回富山県高校放送コンテスト

テレビドキュメント部門	優秀賞3位	「霧」の向こうに」
		NHK放送コンテスト(全国大会) 出場
		制作奨励受賞
ラジオドキュメント部門	優秀賞3位	「まるで地獄絵図」
		NHK放送コンテスト(全国大会) 出場

○ダンス同好会

- ・全国高等学校ダンスドリル選手権大会2024甲信越大会

ヒップホップ男女混成部門スモール編成	1位
ヒップホップ男子部門スモール編成	1位 全国大会出場
ヒップホップ女子部門スモール編成	1位

原稿募集のお願い

本校同窓生で「こんな方を知っている」「こんな方が活躍している」という方はいませんか? 自薦・他薦は問いません。原稿をお寄せ下さる方募集しています。

富山県立魚津高等学校同窓会

〒937-0041 富山県魚津市吉島945番地
TEL (0765) 22-0221
FAX (0765) 22-9970

同窓会ホームページ
<http://uozu-dosokai.net>

魚津高校ホームページ
<https://www.uozu-h.tym.ed.jp>